

12月23日の「オペレーティングシステム特論」 本日の課題

1. コード例 8.4(掲載ページ:p.301)とコード例 8.5(掲載ページ:p.303)を試せ。なお、コード例を試す際に通信ポートが重ならないようにするため、サーバのポート番号は50000または60000に「学籍番号の下3桁」を加えたものを利用すること。(例:学籍番号が21726010の場合は50010または60010となる)

確認の際は、背景実行よりも、PuTTY または TeraTerm を2つ起動し、2つのウィンドウでそれぞれサーバとクライアントを動かす方がわかりやすい。背景実行した場合は、プロセスの後始末を忘れないこと。忘れるとログオフ後もずっと残ったままになる。

動作がおかしい時、サーバ、クライアント、間のネットワークのどこが間違っているかはわかりにくい。そこで、まずクライアント代わりに「telnet アドレス ポート」コマンドを用いてサーバに接続し、動作を確認したうえでクライアントと組み合わせると良い。ネットワークの接続は「ping アドレス」で試すことができる。

2. 章末問題1(掲載ページ p.322)を行え。サーバのポート番号は上と同じとする。

注:システムによっては、リンクの指定が必要である。(例: gcc -lsocket -lnsl プログラムファイル名)